

常総市総合計画審議会会議録

と き 平成30年1月15日（月）
午後1時30分から

と ころ 常総市役所本庁舎3階庁議室

常総市総合計画審議会会議録

平成30年1月15日(月)午後1時30分から第6回常総市総合計画審議会を常総市役所本庁舎3階庁議室に召集する。

会 議 日 程

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 議事録署名人の指名について
- 4 前回のおさらいとこれまでの経過について
- 5 議 事
 - 議案第1号 じょうそう未来創生プラン基本計画案について
 - 議案第2号 答申案について
- 6 答 申
- 7 閉 会

出席委員	倉持 守	水野 昇	入江昭三郎	倉金 一廣	藤島 忠夫	塚本 治男
	生井 邦彦	中山美代子	寺田富次郎	篠崎 孝之	海老原和子	五木田裕一
	坂入 健	長岡 徳樹	沼尻 保	尾上 孝俊	滝田美井子	

欠席委員 岡野 一男

事務局 総務部長 荒木 悟志 行政経営課長 小林 寛明 行政経営課長補佐 渡邊 高之
行政経営係長 落合 宣之 行政経営係 谷田部裕司

行政経営課長 本日は、常総市総合計画審議会にご出席くださいます。お忙しいところ誠にありがとうございます。この審議会は、設置条例の第6条で「委員の半数以上が出席しなければ会議が成立しない」となっておりますが、本日、出席委員は18名中17名であり、会議は成立いたします。続きまして資料の確認をさせていただきます。まず、(1) 会議資料、(2) A4横、第5回常総市総合計画審議会意見等の対応について、(3) じょうそう未来創生プラン前期基本計画案、(4) アンケート票一式になります。それでは、倉持会長よりごあいさつを申し上げます。

会 長 新年おめでとうございます。何かとお忙しい中、委員の皆さまには総合計画審議会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。本日の案件は、前回に引き続き「じょうそう未来創生プラン基本計画案について」ということで、前回の審議会で委員の皆様から出された意見について事務局で整理していただきました。なお、今回が最後の審議会となりますので、基本計画案について、これまで審議を重ねてまいりました内容を踏まえ、審議会から答申を出すということになりますのでどうぞよろしく願いいたします。それではこの後、事務局から説明を求め、審議を進めてまいりたいと思いますので、十分にご審議の程、よろしく願いいたします。

行政経営課長

ありがとうございました。それでは、次第に従いまして会議を進めます。常総市総合計画審議会設置要綱第4条により、会議の議長は会長が務めるということになっております。倉持会長よろしく願いいたします。

会 長

それでは、次第3 議事録署名人の指名ですが、議長において指名してよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

会 長

それでは、議事録署名人に、「水野昇委員」「入江昭三郎委員」を指名します。よろしく願いします。

会 長

次に、次第4 前回のおさらいとこれまでの経過について、事務局より説明を求めます。

行政経営係

(資料に基づき説明)

会 長

何かご意見はございますか。

(「質疑なし」)

会 長

質疑なしということで、次第5 議事に入ります。議案第1号「じょうそう未来創生プラン基本計画案について」、事務局からご説明を願います。

行政経営係

(資料に基づき説明)

会 長 　　ただいま、事務局より審議会の皆様方からご意見をいただきました件について、11に分けて説明がありました。説明についてご意見がありましたらお願いします。

（「質疑なし」）

会 長 　　それでは、これまでの審議内容を踏まえて、議案第2号「答申案について」、事務局からご説明をお願いします。

行政経営係 　　（答申（案）を委員へ配布。答申（案）の説明）

会 長 　　それでは、「じょうそう未来創生プラン基本計画案について」、事務局より答申（案）の説明がありましたが、いかがですか。

水野委員 　　皆さん専門の方々ですから、皆さんの意見は全て答申内容に反映されていると思っているのですが、私が言った意見についても答弁いただきましたけれども、今後の要望として執行部には聞いてもらいたい。なかなか答申されたことが、絵に描いた餅になることが多々あるというのが、これまで三十数年使っていただいた私の意見です。私は合併して常総市になって、これからの常総市の将来像を考えたときは、少子高齢化の時代で人口が減っている。水海道駅の南あたりについて、活性化策として私の専門的な分野から話をしたわけですが、ここに載っているのは具体的にはアグリサイエンスバレー構想ですよね。それだって、私が言ったように本当に常総市の6次産業に関連した事業が発展されるのか私にもわかりませんし、おそらく机上論でやっている皆さんにとっても断定はできないと思うのです。だから、それはやってみないとわからないというのが私の考えです。できれば執行部にはこういう立場で答申する側として要望しておきたいのは、はっ

きりいって民間と合わせた手法も考えていってもらわないと大変だということで、この答申の内容に合わせて今後、取り組んでもらうには、執行部の考え方も慎重にやってもらわないといけない。一つの例として挙げますと、駅南は一等農地ですが、今、アグリサイエンスバレーが何とかなるといってるでしょう。それを合わせると、常総市の人口密度の過疎化、あの辺の人口の集中を考えると常総線の複線も入ってくる場所です。将来の人口増とか、いくら少子高齢化の時代でも常総市から他に出ていってしまう人が多いというのは、駅南を施策の中に盛り込んでいかないと人口減少は止めきれないのかなと私は思っているのです。今の市役所の手法でやれば、やれるのではないかと思っているのです。そこまで思い切った英断をしないと私は難しいのではないかと思っているのです。簡単に口や机上論で書いたりするのは簡単ですよ。私は実際に前期5年間の中で取り組むのに、果たしてそういうことができないと難しいのかな、歯止めがかからないのかなというように思っています。そこらも勘案して、色々取り組んでもらいたい。私の専門的な分野だけの話になりますが、今日おいでの皆さんは各分野の専門家ですから、その意見も反映させてもらいたいと思っております。やはり多くの人の意見を聞きながらやっていかないと、まちの活性化は簡単にはできないと思っております。本来は議会でやるべき問題もありますけれども、この場で要望としてお願いできればと思っておりますので、あとは、議会で皆さんの付託に応えられるように意見を発表させていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

会 長 水野委員から、都市計画マスタープランの中に反映していただきたいという要望のご意見がございました。そのほか、ご意見等ございますか。

長岡委員 私は半分くらいしか出席していないので、すべては把握しておりませんが、水野委員の意見もありますけれども、根本的に常総市は骨格を手術しないと無理なんです。いろいろな意見はありますが、つくばと守谷と、もちろん下妻も。石下、下妻は無指定だったのです。そして、水海道は無指定ではなかったのです。そして落合市長時代に鬼怒川の西は工業団地にしようといった経緯がある。常総線は単線、そして国道

294号は農振である。6次産業のインター周辺は大変なご苦勞をなさって、農振の解除が出ましたけれども、そういう地形の中においてここを發展させるのには、先ほどの答申の3番目、この強みと弱み、まず、優先順位を決める。そして一つ一つやっついていかないと開發も遅れてしまう。一番早いのは水野さんが言ったように駅南が50町あります。あそこにイオン関係がくるといふ話もあったが、これも線引きの問題でゼロになってしまった。神達市長もこの前の挨拶で話していましたが、エクスプレスを乗り入れもできるのでインター周辺開發の辺までもっていったらどうか。地下鉄8号線も色々プランはありますが、東京に近い圏央道も開通したし、皆さんからの意見は財政的な問題はあるんですが、優先順位を決めてやっついていかないとはいけないと思う。これは、平成21年の常総市の水海道インターチェンジ周辺の物流拠点整備計画基本計画報告書ですが、当時は物流であった。問題点を調べてみるとやはり線引きの問題で遅れてしまった。工業団地関係でも懇話会の会長をさせてもらっていますが、皆さんから言うと、常総市の工場に勤めたいが、家が建つところがないから、石下と守谷の方に行ってしまう。これでは人が集まらないでしょう。根本的なことをやらないと、人が住みよい、人が住む拠点はなかなか難しいのではないかと。議会も一緒になって、線引き見直しが一番大事なことはないかと思ひます。インター周辺も人が集まると思うので、そういった強みを最大限に利用してやっってもらふのがよい。

会 長 水野委員、長岡委員から、同じような意見をいただきましたので、都市計画の見直し、都市計画マスタープラン策定の際には十分に反映していただきたいということをお願いします。その他ご意見がありましたらお伺いいたします。

坂入委員 答申書の表題の基本計画に前期の文字が入っていないのですが、これでよいのでしょうか。私どもは前期の話しかしていませんので。

行政経営課長 修正させていただきます。

水野委員

長岡さんと考えが重複しているところがありますが、合併した当時の遠藤市長の頃から言っていた。私は常総市になったからには石下も水海道もないのだから1つになって将来の展望を描かなければいけない。しかし、水海道は50キロ圏で都市計画が反強制的になっており、石下の方は県からの推進でやっていますが、はっきり言いますけれども私と県議会議長で主になって、下妻と石下はくくらなかった。そのため、過疎化の影響がいくらかは防げている。工場も建ちますし、建つところが多いのです。ただ、農用地になっていると5年の一部見直しでまじめにやってもらってしまうと今まで除外してあったところが一等農地にされてしまう。そういうことをやってしまっただけではダメだ。説明責任を果たしてやっていただきたいと思うところがある。往々にして、市役所は県から言われるとやってしまう。それでは困るので、はっきりこういう場で分かってもらわないといけないと思っている。個人の企業と常総市とでは資本が違うのだから、やれる状況もある。アグリサイエンスバレーも昔ならば難しかった。八千代町だって合併の時に県の指導でやってしまった。それで外されてしまった。今、ごたごたやっていますが、現状を見れば判断のとおりです。国の政策だから良いとは100%限りませんし、県の政策だって同じです。私は常総市の代弁者として使ってもらうからには地域おこしも、財源の問題も加味してきますけれども、書くのは簡単ですけども、財源の確保など簡単にはできないのが世の中である。だから、それが実情ということも皆さんに協力してもらって私はやってきました。議員なんかやっていると足を引っ張られることがある。これが世の中の常です。皆さんやれるのですから、どんどん見直しして行ってほしい。私から言えば、今の駅南だってやれないことはないと思うのです。そうでないと水海道の人口増は図れないのではないかと。歯止めがかからないのではないかと。皆さんがどう考えているかは別にして、この場を借りてお願いしたいと思っています。答申について、なんだかんだ言っているわけではありません。皆さんに使っていただいているうちは、ものをいう時ははっきりいう。将来の展望が描けるような常総市になってもらえればありがたいと思います。執行部にもちゃんと皆さんの意見を聞いて、これにとらわれても絵に描いた餅になってしまいますから、いいところは解釈して変更してやっていければ、私は答申に対していうことはございませんのでお願いしたいと思っています。

会 長

それでは、この内容をもって審議会の答申にしたいと思います。次第6の答申でございますが、これからこの場所で基本計画案についての答申の作業に移りたいと思いますので、ここで審議会をいったん中断いたしまして事務局の方にお返しします。

行政経営課長

それでは、議長の方からございましたとおり、10分程の休憩をとらせていただき、会場を準備させていただきます。

(午後2時20分休憩)

(午後2時28分再開)

行政経営課長

会議を再開させていただきます。それでは、これより基本計画案についての「答申」に移りたいと思いません。倉持会長、神達市長、恐れ入りますが、前の方へお願いします。

(倉持会長より「答申」を行う)

行政経営課長

それでは、神達市長からご挨拶をお願いいたします。

神達市長

改めましてこんにちは。昨年からはスタートしました、常総市総合計画審議会が今回で最後ということで、ここまで色々な議論をしていただきまして本当にありがとうございました。基本構想に関しましては昨年中に議会で承認をいただきました。今回は前期基本計画ということで、まさにこれからの常総市が進むべき道しるべとなるこの「じょうそう未来創生プラン」であります。審議会の皆さんに審議いただき、只今いただいた答申を鑑みながら、まずは市民の皆さんと一緒に作った総合計画だというものを前面に打ち出した

いというのが今回の私の指示でもございましたけれども、色々な団体の皆さんにもワークショップをしていただいたり、市民の皆さんにもお声を聴かせていただきました。これからさらに座談会等もスタートしていますから、こうした座談会で団体や町内会の皆さんの声をしっかりと受け止めて、皆さんにも一緒になって考えていただき、常総市の10年の道しるべとして作っていきたいと思います。長きにわたってのご議論本当にありがとうございました。今後ともご指導よろしく願いいたします。

行政経営課長

市長もいらっしゃいますので、「じょうそう未来創生プラン」を策定してきた中で、その感想ですとか、今後のまちづくりについてざっくばらんにご意見等、座談会的にご発言いただいて意見交換などしていただければと思います。

会 長

議長を務めさせていただきましたので、自分の意見がなかなか言えなかったもので、皆さんと意見が重複するかもしれませんが、「じょうそう未来創生プラン」について、皆さんとご審議した中で、私なりに感じるころは、常総市の未来ということで、本日の答申の中でも物足りないということで盛り込んでいただきたいというような話がありましたけれども、私も一緒なのです。今、常総市の人口減に対してどうしたらいいのか、各方面からご意見をいただきましたけれども、アグリサイエンスバレー構想も完成する方向になっている。しかしながら、これからの常総市として、農業を主とした方向性もちろん大事であります。また、企業エリア、工業エリアの拡大、これに伴って住居というのは、今、常総市の市街化においては10%以下の4～5%だと思います。石下地区は無指定ですけれども、そういう中で企業用地の拡大を図りながら、常総市の住居地域の拡大を図らなくてはならないということで、先ほど都市計画マスタープランの中で、これから検討することになっていますが、住宅区域の指定について、見直しの中に入れていただきたいと思っております。企業用地拡大と合わせて、改めてお願いしたいと思っております。

神達市長

普段から活躍いただいている皆さんから常総市の課題と現状について、よくご理解いただいているうえで

の議論ということがわかりました。私も認識を共有しているところでございます。私が市長に就任して1年経ちますが、こんなに進まないで停滞している議論がいくつもあったんだということを実感しました。幼稚園、保育所の統廃合の問題もそうですし、先ほどのインターチェンジ周辺は急ピッチで進めておりますけれども、そういうものを進めていきますと、逆に反対意見、批判も大きくなり進めにくいこともありますが、ここは使命感を持って進めていく必要があるなと思っています。副市長はじめ職員に話していることですが、市役所が決めるのではなく市民の皆さまの声をいただいて一緒に考えて方針を決めるということを重視していきたいと思っています。「対話のインフラづくり」と言っていますが、基本構想にも入れましたが、住民同士が地域、ふるさとの将来を考えて発言できる機会をどんどん作っていきたくて考えております。行政や一部の人だけでなく、少数の意見も取り入れて将来を見据えて、切るところは切らなくてはいけないし、進めるべきことは進めていかなければならない。物事には必ず賛成があれば反対がある。ただ、その反対の方々にもしっかり説明を果たして共感を得ていただいて進めていく。これが一番難しいことではあります。みんなで考えたのだからみんなで協力してやろうという雰囲気は常総市には一番必要なのではないかと。ことで3「た」のまちづくりというのを掲げさせていただきました。対話をどんどん進めていきたいと思えますし、対話をするだけでなく、どうやって合意形成していくかという議論の方法というのを学ぶために、ファシリテーター養成というものをやっております。今度の日曜日にやるのでぜひ、本日お集りの皆さまにも参加していただきたい。市の職員も含めて、ファシリテーターの先生も一緒に喧々諤々楽しく地域の将来を語り合う場があります。若い方もぜひいぶんと参加いただいていますから、そういうことをどんどん進めていきたいと思っています。ぜひ、お声がけいただければ私も参加させていただきたいと思えます。

長岡委員

計画を作るのも結構だけれども、実行しなければいけない。先ほど、議長も言っていましたが、都市計画が一番ネックになっている。三妻あたりでは、跡取りが学園や守谷に行ってしまう。そういう現状だから一刻も早く人が戻ってきて集まるような施策を一つ一つ優先順位を決めてやってもらおう。それが一番大事だと思う。アグリサイエンスバレーももっとスピードを上げて頑張ってもらいたい。

篠崎委員

私はこの計画が実行できるか、できないかというのは、財源の確保にあると思います。お金さえあれば何でもできるという現状ですから、市長の太いパイプを生かして、トップセールスをしてもらって実現に近づけていただければと思います。期待をしていますのでよろしくお願いします。

神達市長

財源の確保は喫緊の課題ですけれども、今までみたいに補助金に頼るばかりでなく、自主財源をどうやって作っていくかであると思う。そのためには、人口を増やす、家を建ててもらうことで、固定資産税や住民税を増やす。こういった自主財源を増やすためにも人に住んでもらうということが重要である。

滝田委員

まちづくりや人を集めるということは基本なので、その下に具体的な政策が出てくると思うのですが、目玉といいますか、人を集めるにはイオンではないですが誘致する、教育で言えば小中一貫校をつくるとか、つくばではやっていると思いますが、何か常総市として目玉が欲しいなと思いました。大学をつくるとか、色々な課題はあると思いますが、具体的なものがあればよかったなと思います。市の特徴をどんどん出していくのがよいのかなと思いました。

水野委員

私らもみんな専門屋ですから、教育の人もあるし、農政の分野もあるし、聞かせていただければありがたいです。今、滝田さんからあったように私は必ずこれをやるとか、今はアグリサイエンスバレー道の駅だけでしょうけれども、私も新年会で10数か所歩いているが、皆さんの声を聴いていただきやっっていけば間違いないと思います。

長岡委員

江戸まで高瀬舟がでていた。それをやろうかという話があった。防災にもなる。東京などが大震災となったときには、舟しかないからね。関東鉄道が大正2年の時にできた。その前は高瀬舟で江戸に行っていた。そういう川の利点を利用してやるということやエクスプレスを常総線に持ってくるなど、何か目玉になるよ

うなことをやってもらおう。

水野委員

新年会をやっていると常総市をどうするかということと言われる。市長は県議会議員までやってルートを持っていますから、国・県の色々なルートを通して行政に生かすことを考えてもらわないと、アグリサイエンスバレーも5年もかかっている。やることは山積している。やらなければ、常総市の将来の展望が開けないのは、今、市長が言われたことなのでどうぞよろしく。

生井委員

地域の活性化ということがよく議題になりますけれども、活性化とは何ぞやということは人の動きだと思います。常総線には水海道から石下まで7つの駅がある。1つの行政区に7つの駅があるというのは、そうないと思う。駅の活用方法ができていないのではないか。水海道駅前がかつて非常に元気がよくて人の動きが多かった。今は、駅前の機能を全く果たしていない。あれは相当、人が動くような駅にしていけないと活性化はないと思う。

神達市長

一市民として感じていたことは今言われたようなことである。それは今と昔で大きく違うところは、つくばエクスプレスが通ったことだと思います。人の流れが大きく変わった。この先、このままの常総線のままで、かつての賑わいをということで議論していても、らちがあかない。それだったら、電化してエクスプレスを乗り入れさせる。それぐらいの覚悟を持たないと、将来的には廃線ということにもなってしまうかもしれない。今週、沿線の首長会議をやりませんが、電化、エクスプレス乗り入れなども市民の声としてどんどん醸成できるスタートの年にしたい。また、今の常総線を見直して活性化してもらおうと、私と副市長と関東鉄道の社長と議論させてもらって、これから色々協議していこうとなった。例えばの話ですが、沿線の首長で話をしている決定はしていませんが、車両を2両ぐらい自治体で購入して、それをラッピングして、地域のおいしいものをPRするとか、高級列車を走らせるとか、関東鉄道と協力しながらレストラン列車とか、この地域の地産地消を行政で運営できるものがないかなども投げかけている。東京の人たちは常磐線や

エクスプレスは知っているが、常総線はおそらく8割の人は知らない。常総線を東京の人達に知ってもらうためには、こういったアイデアがあるというアドバイスをいただいた。車両は100万円くらいで買えるらしいので、そういったことも研究を進めている。

長岡委員 何か面白いことをやっておいた方がよい。

行政経営課長 それでは、今回回答申いただきました基本計画案につきましては、今後、市民意見公募を実施し、今年度中に決定してまいります。また、現在、皆様にお配りしております本計画は殺風景なものになっていますが、今週いっぱい、本計画書冊子の表紙イラストの公募を行っています。皆さまからいただいたイラストを挿絵に使って親しんでもらえるような計画書にしていきたいと考えていますのでよろしくお願いします。

会 長 それでは、以上をもちまして本日の協議を終了いたします。昨年7月から半年間にわたり、ご協力いただきまして誠にありがとうございました。

(午後3時00分 会議終了)

上記の議事の正確なることを証するためここに署名する。

平成30年2月19日

常総市総合計画審議会

会 長 倉持 守

署名人 水野 昇

署名人 入江昭三郎